

自啓寮農業文化講演会

6月25日（木）、講師にブッシュン・アケボノ氏を迎えて、自啓寮農業文化講演会が行われました。

今回の講演会の講師はブッシュン・アケボノさん、インドのニューデリー出身で現在、美里町で農業をしています。実はブッシュンさんは平成22年3月に本校を卒業し農業高等学校を卒業してから一人で農業をはじめました。

アケボノさんの小さい頃からの夢は調理師になること。父が料理人で、母も料理がとても上手で、幼い頃から両親の姿を見て育ったそうです。とにかく食べること、料理することが好きなアケボノさんです。

父は日本が好きで一人で日本に来て東京や福島のレストランで働いたのちに、16年前にインド料理店「ヒマラヤ」を仙台市内に開店し、中学校2年生の時に家族全員で仙台での生活を始めました。日本語がわからないなかでも、お店の人、お客様を相手に勉強し、まわりに支えられながら生活を充実させていきました。そして日本（仙台）が好きになったそうです。

なぜ、農業高校に進学したかと・・・本来は調理師になるのが夢だったが、高校進学で悩んでいるときに常連のお客様に「アケボノちゃん食べ物に興味があるなら、宮城県農業高校を受けてみたら？」と勧められ、調理師を夢見ているのに、タマネギやジャガイモがどのようにして作られるのか知らなかったのです。父を超えられる調理師になるためにも食材のことをもっと勉強しようと考えたのがきっかけだったそうです。実際に栽培を通して大変さを知ることもあるが、カブの葉っぱは根の十倍ものカルシウムがあることを知って野菜は丸ごと、わたしたちの命になってくれている。農業には自分のしらなかった大事な世界があると感じたそうです。

2013年4月、美里町に75aの農地を借り、新規就農者の認定も受けて有機野菜を作っています。タマネギ、ジャガイモ、トマト、オクラ、パプリカ、カリフラワー、ニンジンなどを栽培しています。その野菜は毎週土曜日、美里町内の直売所で農家として、販売員としてお客様の声を聞きながら、今後の栽培に活かしていきたいと考えているそうです。

些細なことから農業の魅力に惹かれ、今は専業農家3年目を迎えながらも、まだまだ勉強中だと話すアケボノさん。生徒のみなさんも夢実現に向けてがんばってください。

